山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第126集

山梨県東八代郡石和町・御坂町

石和高校周辺遺跡

— 県立石和高等学校グラウンド拡張整備事業 —

1997・3

山梨県教育委員会

山梨県東八代郡石和町・御坂町

石和高校周辺遺跡

— 県立石和高等学校グラウンド拡張整備事業 —

1997・3

山梨県教育委員会

序

本書は、1996（平成８）年度に実施した、山梨県東八代郡石和町市部・御坂町成田に所在する石和高校周辺遺跡の発掘調査報告書であります。この調査は、県立石和高等学校グラウンド拡張整備事業に伴う発掘調査であります。

石和町は、大部分を甲府盆地北東部の平地部と、町の北東部の大蔵経寺山を最高峰とする山地部に大別されます。本遺跡は、盆地部の笛吹川左岸の氾濫原に接し、西北方向へ傾斜する金川扇状地の末端部に位置し、標高274m程の低地に所在しています。

今回の調査では、遺構は中世に位置づけられる土坑１基が検出され、また遺構には伴っていないものの、弥生時代後期～古墳時代前期のものを中心とし、縄文時代の打製石斧・石鏃なども出土しております。今回検出された土坑については、大型の礫が覆土中に70点ほどみられ、その中には、石臼（下臼部）１点、土師質土器の小破片、古銭『熙寧元寶』が一枚検出されています。

今回の調査によって、出土した遺物はほとんどが遺構には伴っていません。これらは、おそらく周辺の遺跡からの流入と考えられます。

これらの資料は、多くの遺跡の存在が知られるようになった甲府盆地底部の遺跡の解明につながるものと思われます。本報告書も、断片的なものではありますが、そうした資料の１つとして、ご利用いただければ幸甚です。

末筆ながら、御協力を賜った関係機関各位並びに直接調査に従事していただいた方々にあらためて深甚の謝意を表します。

1997年３月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚初重

例　　言

1．本書は、山梨県立石和高等学校グラウンド拡張整備事業に伴って発掘調査された、石和高校周辺遺跡の発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、山梨県教育委員会学校施設課の依頼を受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
3．本報告書の執筆・編集は高野玄明・雨宮芳夫が行った。
4．発掘調査の出土品及び記録は、山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
5．調査にあたって、次の方々に御指導及び御協力を戴いた。記して謝意を表したい。
山梨県立石和高等学校、石和町教育委員会、同小渕忠秋、御坂町教育委員会、同望月和幸、一宮町教育委員会、同瀬田正明、株式会社カワイ(基準方眼杭設置)

凡　　例

1．遺構・遺物図面の縮尺は次のとおりである。
遺物平面図1/60、土器1/3、石器1/2である。
2．遺構断面中のレベルポイント部分にある数字は標高を表す。

目　　次

序
例言
凡例
第1章　環　　境 …… 1
　第1節　地理的環境 …… 1
　第2節　歴史的環境 …… 1
第2章　発掘調査経過 …… 4
　第1節　調査日程 …… 4
　第2節　調査組織 …… 4
　第3節　調査方法 …… 4
第3章　遺構と遺物 …… 6
　第1節　遺　　構 …… 6
　　1）第1号土坑 …… 6
　第2節　遺　　物 …… 11
　　1）第1号土坑 …… 11
　　2）遺構外出土遺物 …… 11
第4章　まとめ …… 14

第1章　環　　境

第1節　地理的環境

本遺跡が立地する東八代郡石和町は、山梨県のほぼ中央部に位置し、その大部分は甲府盆地北東部の平坦地に属するが、町の北東部には大蔵経寺山を最高峰とした山岳地帯、また東南部には、金川扇状地の一角をなす地域とが存在する。周囲は西に甲府市、北に東山梨郡春日居町、東から南にかけて東八代郡一宮町、御坂町、八代町、境川村、中道町の1市6町村と接している。

石和町の遺跡の分布は、金川と笛吹川が合流する部分の南東部と大蔵経寺山の山裾一帯に集中的に見られる。一方、笛吹川と第2平等川に挟まれた町の中央部は少数の遺跡しか確認されていない。これは明治40年の大水害による厚い土砂が堆積しているためと思われる。

本遺跡は、石和町東南部の金川扇状地の扇端部に位置し、標高は274mを測る。本遺跡から、以前グラウンド造成時に、土器が検出されたとするが、詳しい状況は不明である。

第2節　歴史的環境（第1図・第1表）

本遺跡が所在する石和町には、61カ所の遺跡が分布調査や発掘調査により確認されている。第1節で述べたように町の中央部では、遺跡は希薄であるものの、大蔵経寺山の南斜面に積石塚古墳の群集や、山裾一帯には、縄文～中世に至る遺跡が濃密に分布する。また、南東部の扇状地上に奈良～平安時代の遺跡の分布が認められる。

以下、石和町の主に中心部の遺跡の分布状況について、時代別に見てみたい。

縄文時代の遺跡については中川松本遺跡(8)、中新井遺跡(9)、満中田遺跡(14)、堤南遺跡(17)、畦作遺跡(34)などはいずれも分布調査で確認された遺跡で、該期の小破片が採集されている。また、分布図には載せていないが、八代町とにまたがる横田遺跡において、畑地の耕作時に土器が検出され、中期初頭の五領ヶ台式、中期中葉の藤内式の土器片、打製・磨製石斧などが出土している。耕作時において炉石や焼土の存在もあったとされることから、集落の可能性が高く、本町にとっては該期の重要な遺跡である。また、遺構には伴っていないが平成元年度に調査された松本塚ノ越遺跡(32)、平成2年度に調査された上堀遺跡(18)でも該期の土器片が出土している。

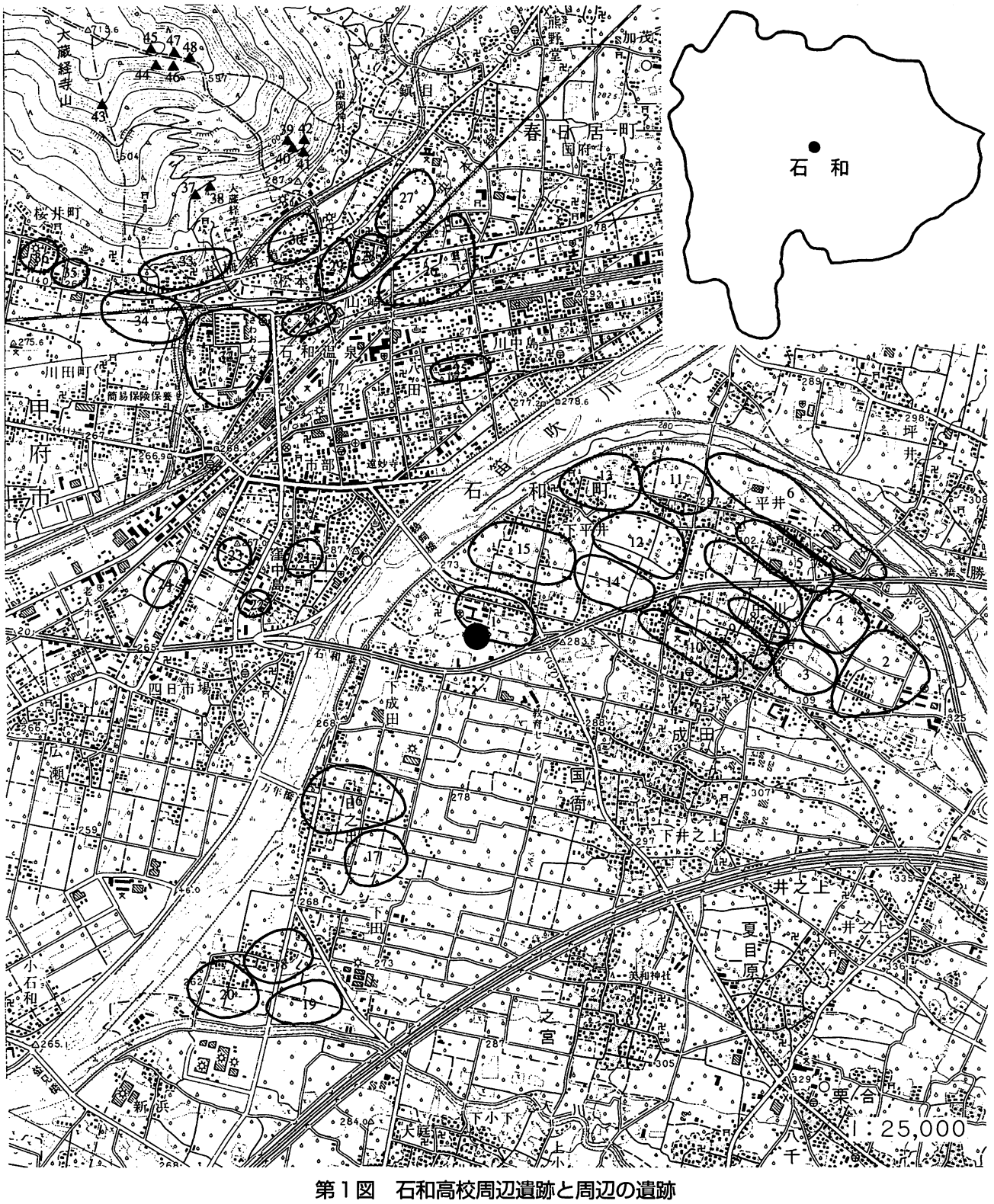
弥生時代の遺跡については、塚の越遺跡(20)、中直遺跡(29)などで土器片が発見されている。平成2年度に山梨県埋蔵文化財センターが発掘調査をおこなった観音溝遺跡(19)では、住居跡2軒、溝状遺構4条が検出され、壷形・甕形土器、高坏脚部、砥石などが出土している。

古墳時代においては、本町内には古墳及び集落について重要な遺跡が数多く見られる。古墳については松本地区に集中している古墳時代後期の積石塚古墳群がある。いずれも大蔵経寺山周辺に位置し、特に積石塚古墳群の中でも十五号墳(41)の発掘調査は山梨学院大学考古学研究会が昭和60年度に二期にわたり行っている。墳丘の規模は12mで、北を山側とし、南を谷側とした斜面に立地している。墳丘の石は、こぶし大及び人頭大の石が混在した状態であった。出土遺物は、墳丘内と石室内からであり、墳丘内で須恵器や、玄室内では床面となる敷石の直上や、その間から土師器、鉄器類、装身具類（耳環・管玉・切子玉・勾玉など）、人骨（歯）などが出土している。古墳時代の集落は、中川地区から平井地区の周辺部にかけて規模の大きい集落の存在が推定されている。御坂町の姥塚・二の宮遺跡の両遺跡では、400軒を越える住居跡が発見されており、6世紀代を中心とする大規模な集落であり、中川地区の南方約0.7kmのところにある。町内において、古墳時代後期において貴重な資料が得られている松本塚ノ越遺跡(32)、後田遺跡(27)の集落の存在があげられる。

奈良・平安時代の遺跡については本町内の南東部での分布が多く認められる。昭和47年度にバイパス建設に伴い発掘調査された赤井遺跡(7)では、11世紀代の住居跡2軒が確認され、遺物は土師器の坏、皿、高坏、台付椀、甕、灰釉の高台付坏などが出土している。平成2年度に宅地開発に伴い発掘調査された、狐原遺跡(2)では10～12世紀代の住居跡9軒、土坑などが検出されている。出土遺物は土師器坏、高台付坏、甕、羽釜、灰釉陶器などがあり、内面黒色土器、墨書土器、墨痕のみられる土師器、置きカマドなどがある。平成3・4年度に

発掘調査された東田遺跡⑬では住居跡が１軒検出された。出土遺物は少なく、土師器坏及び甕の破片や、１点ではあるが内外面が黒色に研磨された高台付坏が出土している。

中・近世の遺跡では、第１図の分布図に載せていないが、成就院遺跡、八田屋敷内遺跡、石和陣屋跡が知られている。成就院遺跡は、中世の館跡（室町時代）であるとされ、昭和52・60年度の２回の分布調査では、遺物や遺構は確認されていない。八田屋敷内遺跡は、「八田氏屋敷」・「八田家御朱印屋敷」とも言われ、中世の豪族屋敷跡といわれ県の史跡に指定されている。東西約120m・南北約150mの台形を呈し、周囲に水路を巡らす。現在は、屋敷の東側の一部と北側に幅７～10mの土塁を残している。平成５年度に公園化に伴う発掘調査



第１図　石和高校周辺遺跡と周辺の遺跡

を石和町教育委員会が土塁に囲まれた畑地部分の発掘調査を行っている。調査の結果、畦状の遺構・建物跡などが検出されており、出土遺物については、陶磁器片が出土している。石和陣屋跡は、現在の町立石和南小学校にあたり、享保九（1724）年～明治元（1868）年まで続いた甲斐国三部代官の一つである。当時の遺構として残るものは、八田家の表門に陣屋の正門が移築されたと伝えられているほかは、学校敷地の西辺に残る石塁のみとなっている。この石塁は1982年に小学校体育館建設に伴って石塁の調査が行われている。

【引用・参考文献】

石和町町誌編さん委員会　1994　『石和町誌　第３巻　資料編』

「角川日本地名大辞典」編纂委員会　1984　『19　山梨県』

第１表　石和高校周辺遺跡と周辺の遺跡一覧表

	遺跡名	時代		遺跡名	時代
1	石和高校周辺遺跡	縄文・弥生後期・古墳前期・平安・中世	25	大郭遺跡	平安
2	狐原遺跡	縄文・奈良・平安・中世（平成２年度調査）	26	伊勢の宮遺跡	平安
3	宮の前遺跡	奈良・平安（平成４年度調査）	27	後田遺跡	古墳（平成２年度調査）
4	御幸道遺跡	古墳・奈良・平安	28	古屋敷遺跡	奈良・平安
5	坪井道上遺跡	古墳～平安	29	中直遺跡	弥生・奈良・平安
6	宮の上遺跡	古墳・奈良・平安（平成４年度調査）	30	大西遺跡	奈良・平安
7	赤井遺跡	奈良・平安（昭和４７年度調査）	31	三門遺跡	平安
8	中川松本遺跡	縄文・奈良・平安・中世	32	松本塚ノ越遺跡	縄文～平安（平成元年度調査）
9	中新井遺跡	縄文・奈良・平安	33	小石田遺跡	古墳・奈良・平安
10	一丁田遺跡	奈良・平安・中世	34	畦作遺跡	縄文・奈良・平安
11	御堂遺跡	平安	35	鳥居遺跡	弥生・奈良・平安
12	下前田遺跡	平安・中世	36	清水遺跡	平安
13	東田遺跡	奈良・平安（平成３・４年度調査）	37	無名古墳	古墳
14	満中田遺跡	縄文・奈良・平安	38	無名古墳	古墳
15	小石原遺跡	縄文・奈良・平安	39	無名古墳	古墳
16	堤下町遺跡	縄文	40	無名古墳	古墳
17	堤南遺跡	縄文・奈良・平安	41	大蔵経寺山十五号墳	古墳（昭和６０年度調査）
18	上堀遺跡	縄文～平安（平成４年度調査）	42	無名古墳	古墳
19	観音溝遺跡	弥生（平成２年度調査）	43	鞍掛塚古墳	古墳
20	塚の越遺跡	弥生～平安	44	七つ石一号墳	古墳
21	観音寺前遺跡	平安	45	七つ石二号墳	古墳
22	新開町東遺跡	平安	46	七つ石三号墳	古墳
23	新開町北遺跡	平安	47	七つ石四号墳	古墳
24	新開町南遺跡	平安	48	七つ石五号墳	古墳

第2章　発掘調査経過

第1節　調査日程

平成8年4月16日　文化庁に発掘通知を提出する。
平成8年5月20日　発掘調査を開始する。
平成8年7月12日　発掘調査を終了する。
平成8年7月17日　埋蔵文化財発見届を石和警察署に提出する。

第2節　調査組織

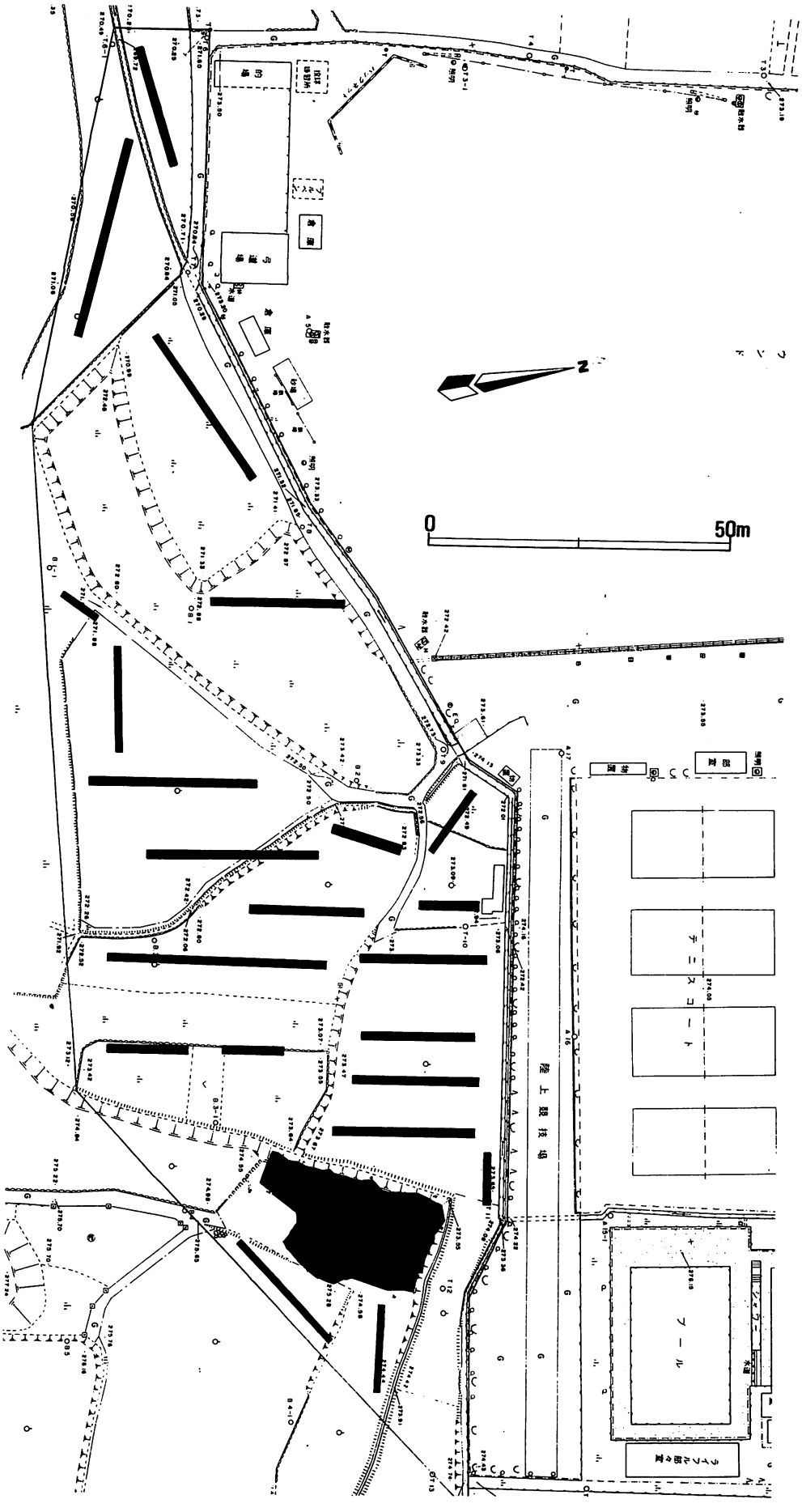
調 査 主 体　山梨県教育委員会
調 査 機 関　山梨県埋蔵文化財センター　所長　大塚初重
発掘担当者　山梨県埋蔵文化財センター　主任・文化財主事　高野玄明
　　〃　　雨宮芳夫
発掘作業員　熊谷真樹子・北村さつき・大塚昭六・志茂　博・保延　勇・山下いよ子・永井由美子
　　久保健司・河野　誠・上嶋十郎・田辺秋太郎・武田きく江・鈴木初音・白須ヤスエ
整理作業員　志村君子・中込星子・大久保發子・永井由美子・北原和江

第3節　調査方法

今回の調査区であるグラウンド拡張部分にトレンチを設定し、まず遺跡の範囲確認調査を行うことにした。調査区10,866㎡内に長さ8～33m、幅1.5mの試掘トレンチを重機を用いて設定し、トレンチ内部の精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。遺構・遺物が検出されたトレンチについては、トレンチ周辺を拡張し本調査を行うことにした。その結果、調査区東側中央付近の約1,000㎡程の微高地上（第2図）の黒色土中から、遺構・遺物が検出されたが、それ以外の箇所については、低地のため深さ40～70㎝程で青色砂層と湧水が見られるなど、遺構・遺物の検出には至らなかった。

トレンチ内より遺物が確認され拡張し、本調査を行うことになった微高地（1,059㎡）については、表土を重機によって除去し、遺物が出土する黒色土からはジョレンを用いて人力で、丁寧に掘り下げを行った。基準杭設定は、株式会社カワイによって本調査区全体に5m×5mのメッシュを設定した。グリッドは、東西方向へA・B・C～のアルファベット、北～南方向へ1・2・3～の算用数字を設定し、A1・B2・C3～グリッドと呼称することにした。

検出された遺構及び遺物の記録・取り上げは次の手順で行った。掘り下げは、各グリッドごとに行い、遺構の検出につとめた。出土した小破片については各グリッドごと一括で取り上げ、主な遺物については、各グリッドごとに個体番号をつけ、原則として平面図に記録し、レベリングなどの記録作業終了後、取り上げた。遺構については、S＝1/20及び1/10を基本に作図を行い、遺構・遺物平面図、土層断面図、遺物出土状況写真などの作業を経て、調査を終了している。



第２図　トレンチ配置図

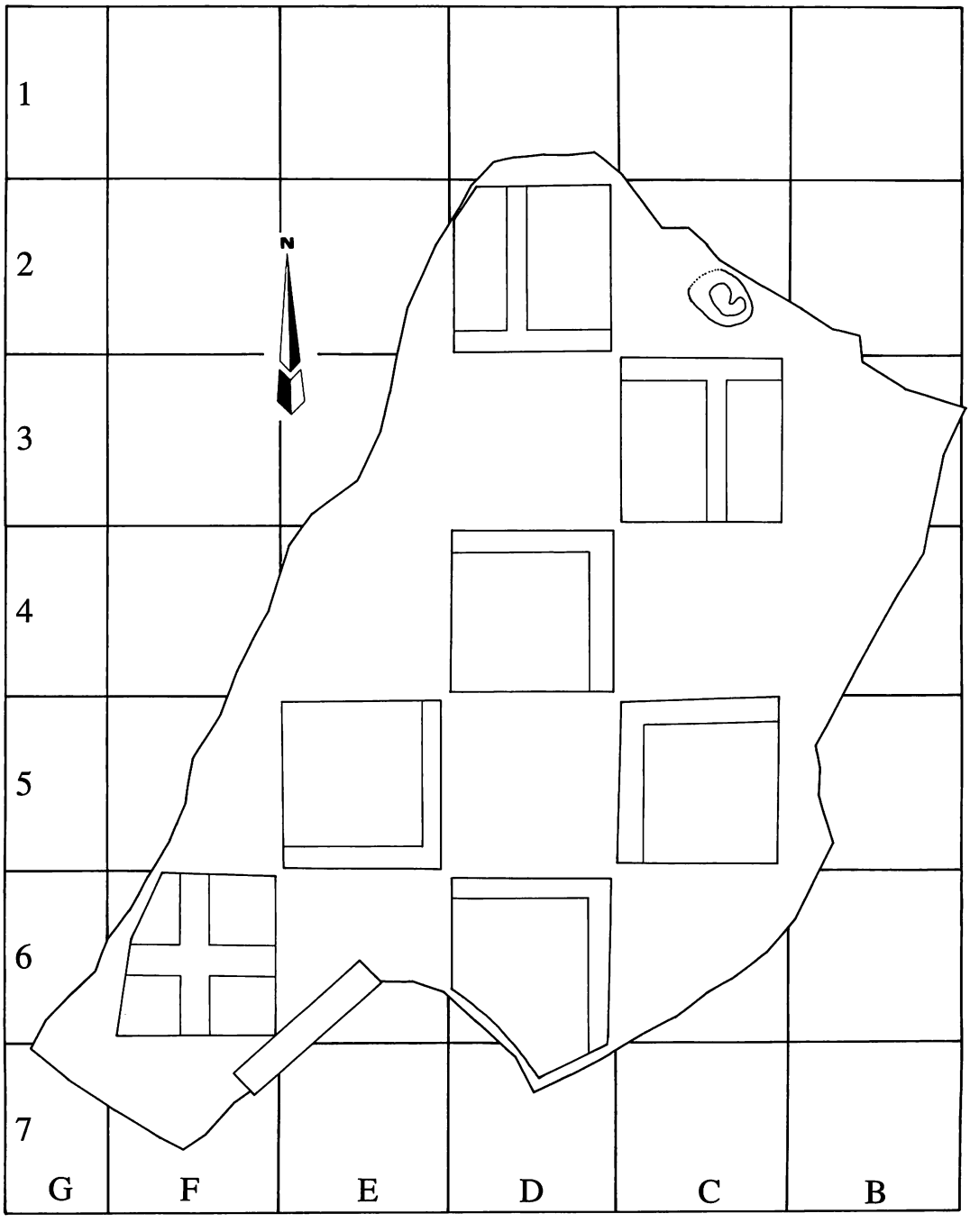
第３章　遺構と遺物

第１節　遺構

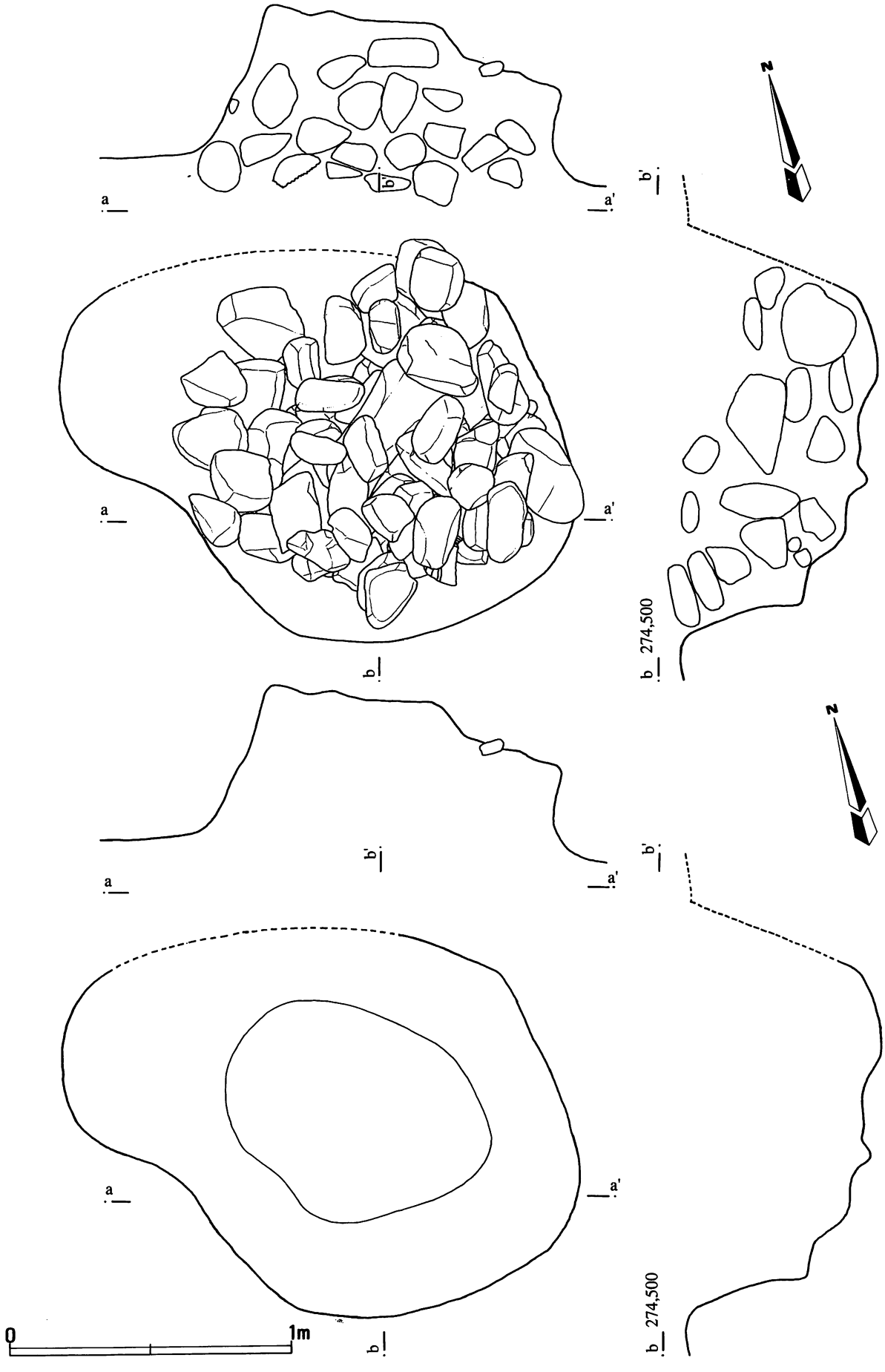
１）　第１号土坑（第４図）

Ｃ－２グリッドに位置する。長径1.92ｍ、短径1.31ｍ、深さ0.68ｍを測る。平面形はほぼ楕円形を呈し、断面形は鍋底状を呈するが、底面は起伏が激しい。覆土は暗褐色を呈する。土坑内には、礫が15㎝～40㎝大のものが、土坑全体を覆い、土坑上面から底面まで72点が出土している。

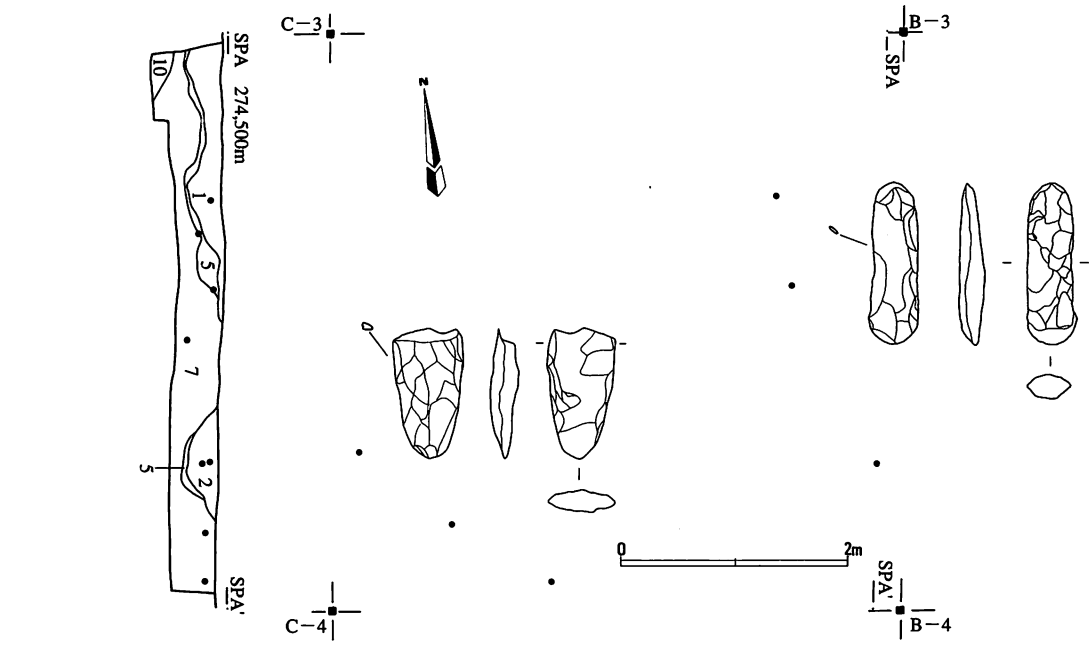
出土遺物は、土師質土器の細片が数点、銭貨「熙寧元寶」１点、磨石１点、石臼（下臼部）が出土している。（第10図１・２・３）



第３図　グリッド配置図

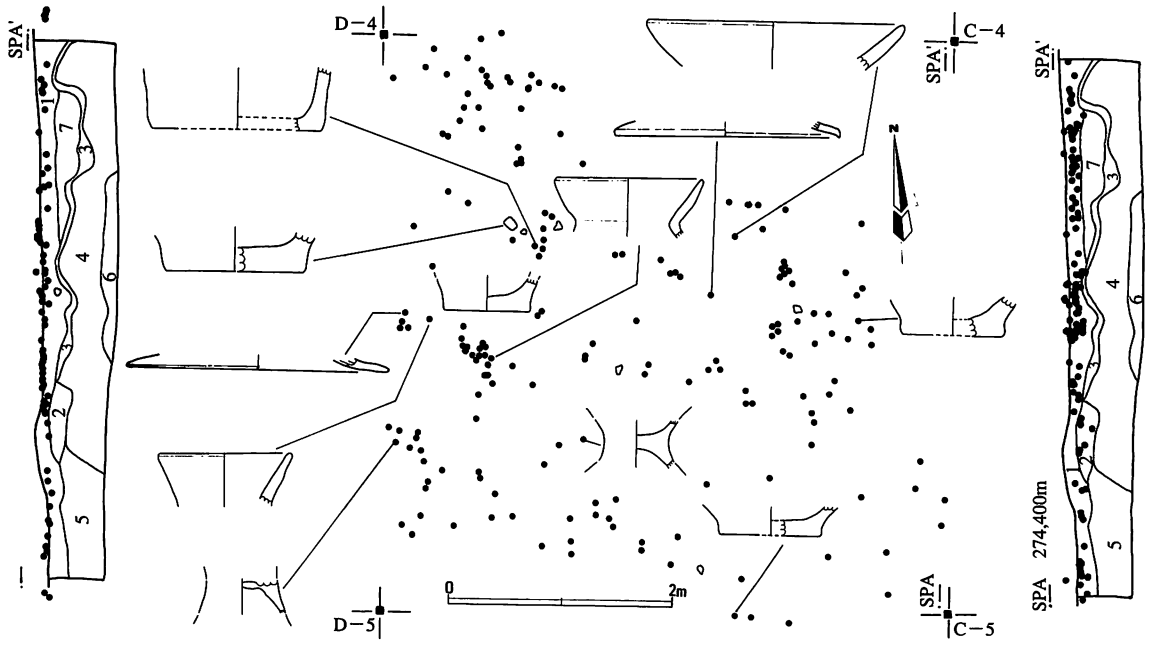


第4図　土坑平面図



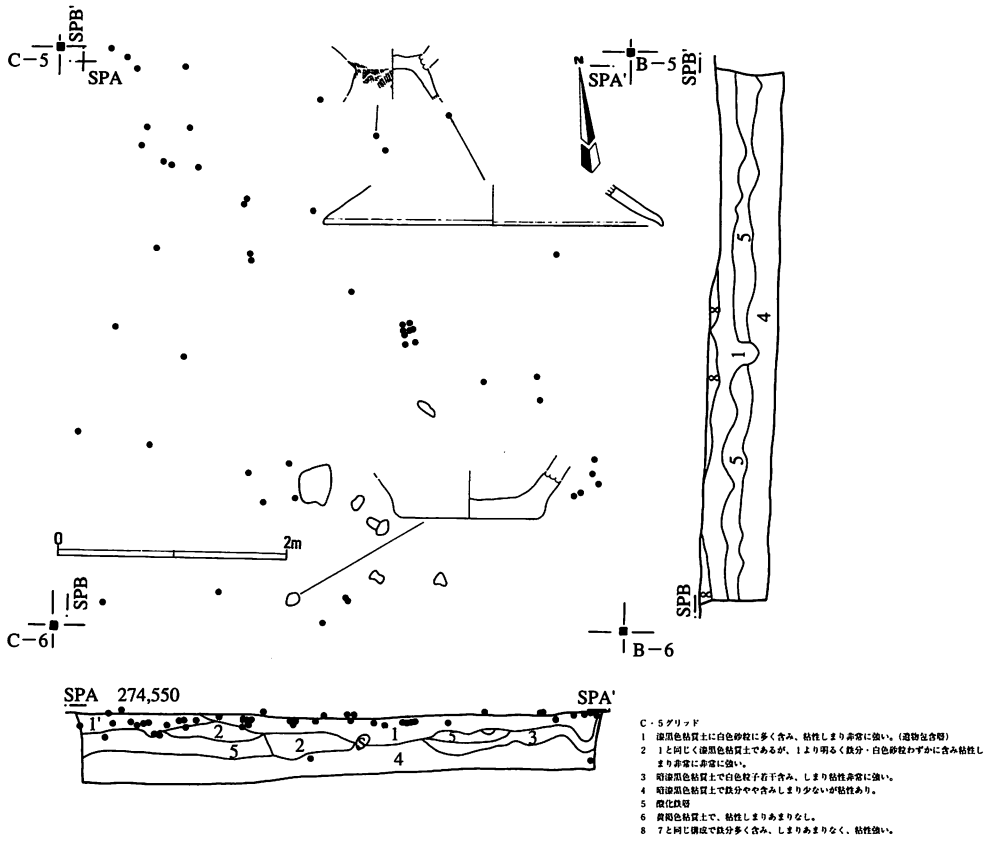
C・3グリッド
1　暗黒色粘質土に白色砂粒に多く含み、粘性しまり非常に強い。(遺物包含層)
2　1と同じく暗黒色粘質土であるが、1より明るく炭分・白色砂粒わずかに含み粘性しまり非常に強い。
5　酸化鉄層。
7　暗褐色粘質土で白色粒子わずかに含み、炭分多く、しまりなし、粘性強い。
10　黄褐色粘質土で、しまり粘性あまりなし。

第５図　Ｃ－４Ｇ番号遺物平面図及びセクション図

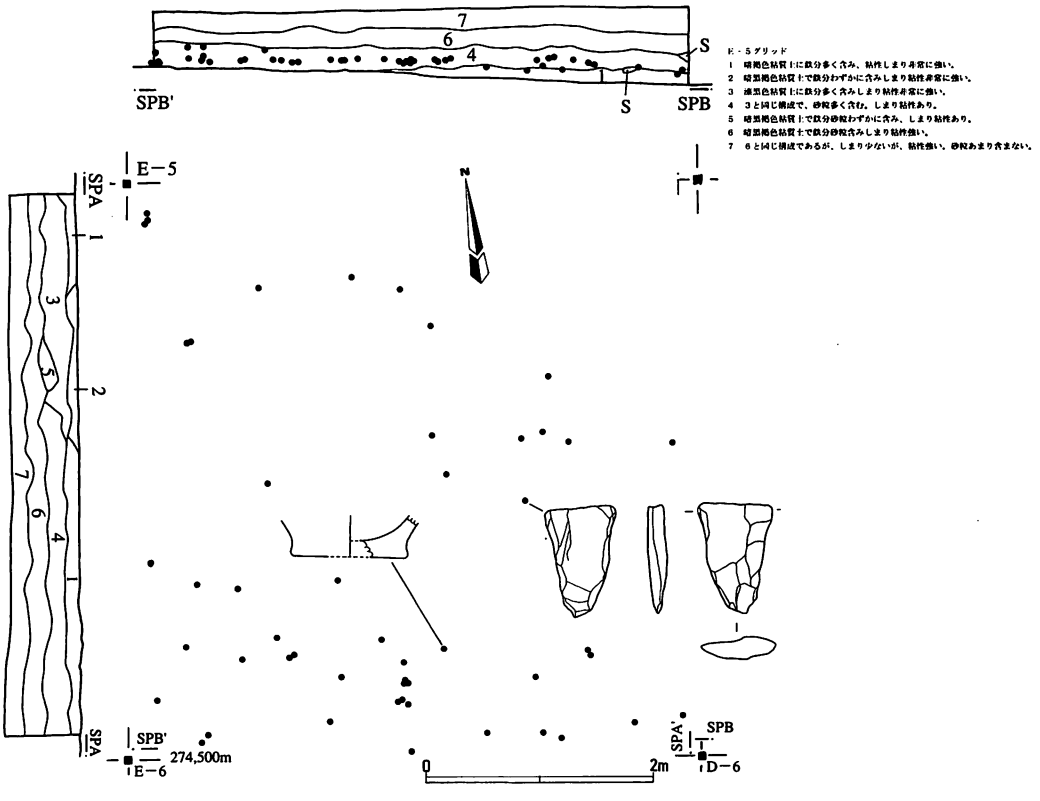


D・4グリッド
1　暗黒色粘質土に白色砂粒に多く含み、粘性しまり非常に強い。(遺物包含層)
2　1と同じく暗黒色粘質土であるが、1より明るく炭分・白色砂粒わずかに含み粘性しまり非常に強い。
3　暗黒褐色粘質土で白色粒子若干含み、しまり粘性非常に強い。
4　暗黄褐色粘質土で炭分やや含みしまり少ないが粘性あり。
5　酸化鉄層
6　黄褐色粘質土で、粘性しまりあまりなし。
7　暗褐色粘質土で白色粒子わずかに含み、炭分多く、しまりなし。粘性強い。

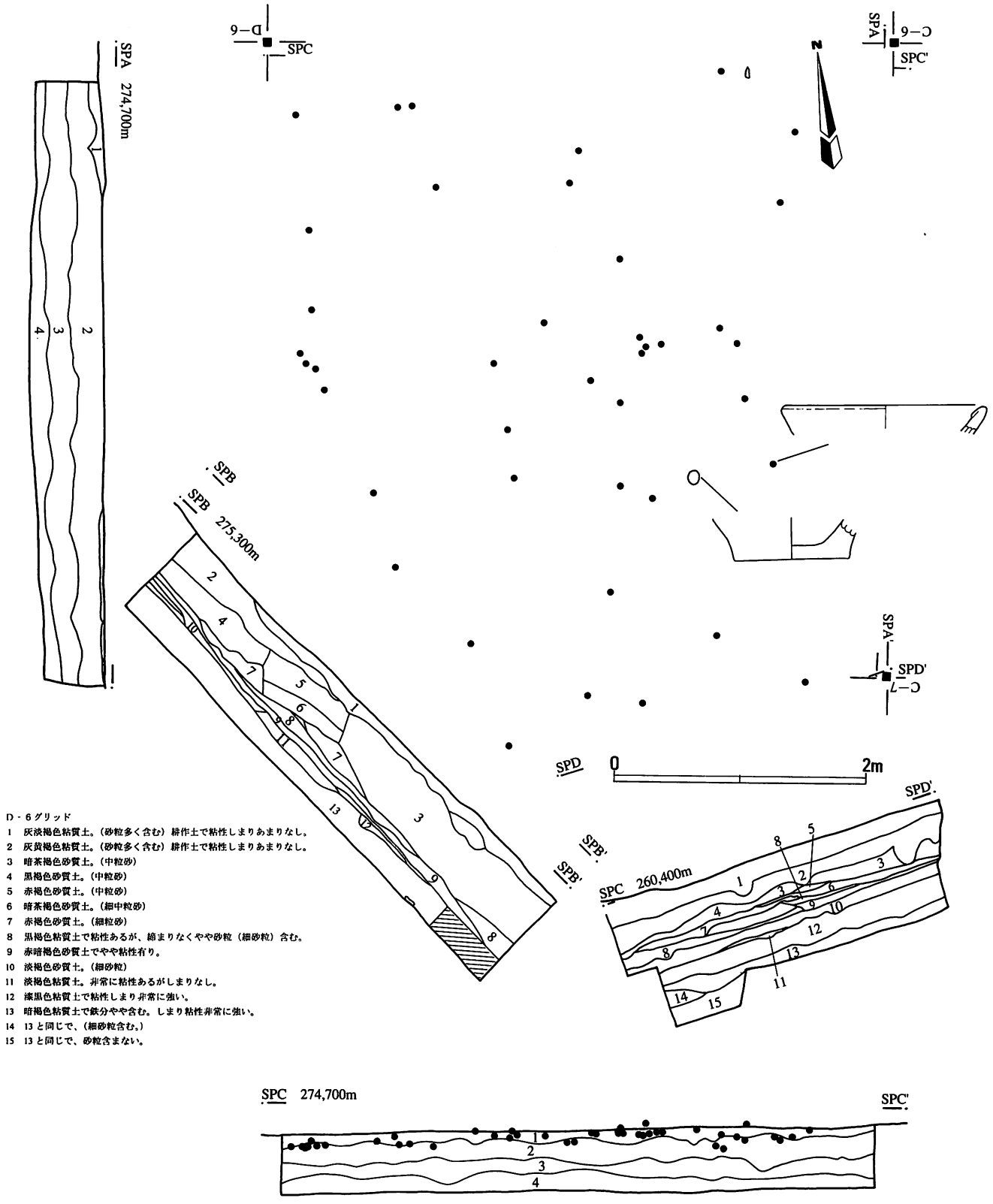
第６図　Ｄ－４Ｇ遺物平面図及びセクション図



第７図　Ｃ－５Ｇ遺物平面図及びセクション図



第８図　Ｅ－５Ｇ遺物平面図及びセクション図



D・6グリッド

1 灰淡褐色粘質土。(砂粒多く含む) 耕作土で粘性しまりあまりなし。
2 灰黄褐色粘質土。(砂粒多く含む) 耕作土で粘性しまりあまりなし。
3 暗茶褐色砂質土。(中粒砂)
4 黒褐色砂質土。(中粒砂)
5 赤褐色砂質土。(中粒砂)
6 暗茶褐色砂質土。(細中粒砂)
7 赤褐色砂質土。(細粒砂)
8 黒褐色粘質土で粘性あるが、締まりなくやや砂粒(細砂粒)含む。
9 赤暗褐色砂質土でやや粘性有り。
10 淡褐色砂質土。(細砂粒)
11 淡褐色粘質土。非常に粘性あるがしまりなし。
12 漆黒色粘質土で粘性しまり非常に強い。
13 暗褐色粘質土で鉄分やや含む。しまり粘性非常に強い。
14 13と同じで、(細砂粒含む。)
15 13と同じで、砂粒含まない。

第9図　D－6G遺物平面図及びセクション図

第２節　遺物

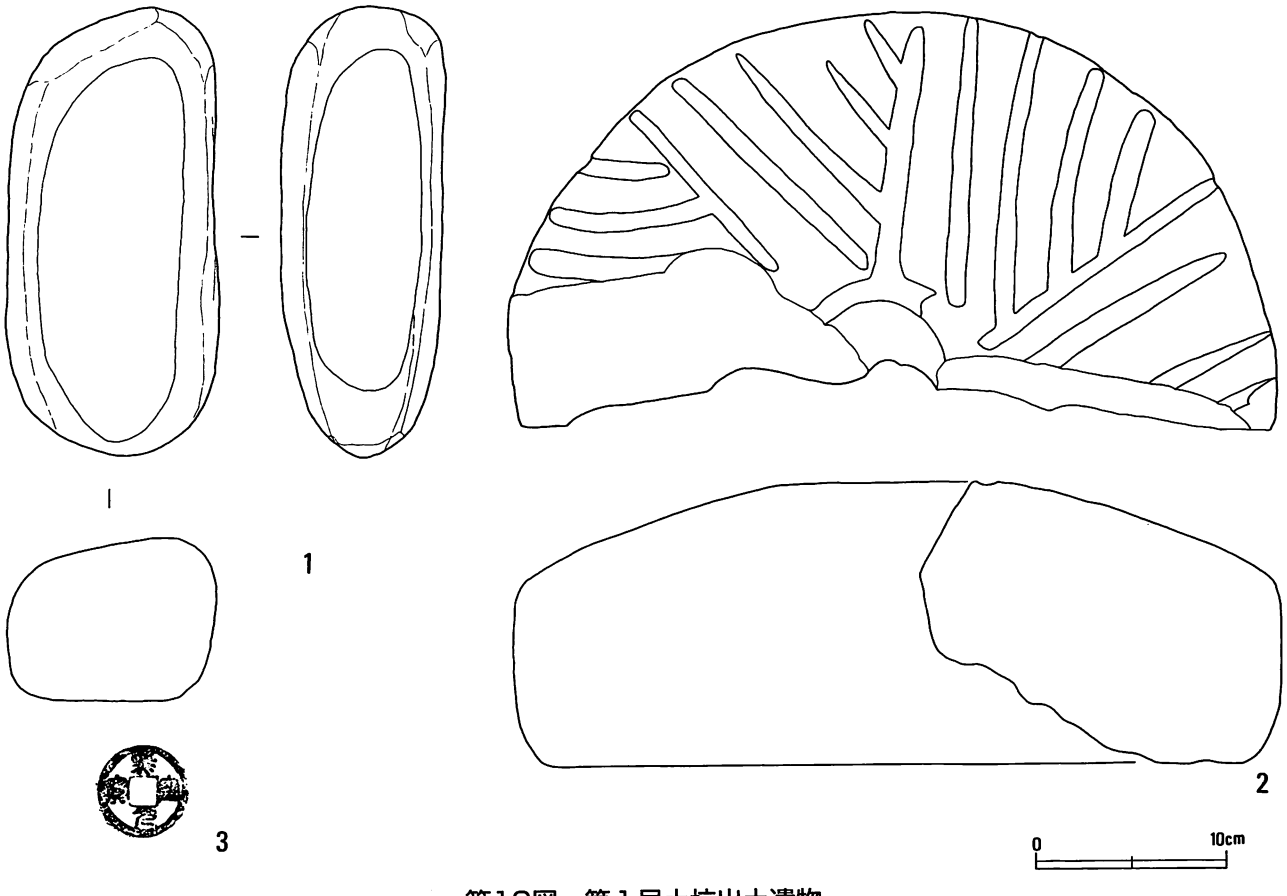
1）　第１号土坑（第10図１・２・３）

１・磨石で長さ11.7㎝、幅5.5㎝、厚さ4.2㎝、重量は1,480ｇ、使用面は３面で石材は花崗岩製。２・石臼の下臼部で二分の一の破片である。重量6,210ｇ。目は八文画５溝であることが分かる。溝は縁まで達しており、使用による摩滅が激しい。安山岩製。３・銭貨。表面はあれており判読が難しいが「熙寧元寶」と思われる。

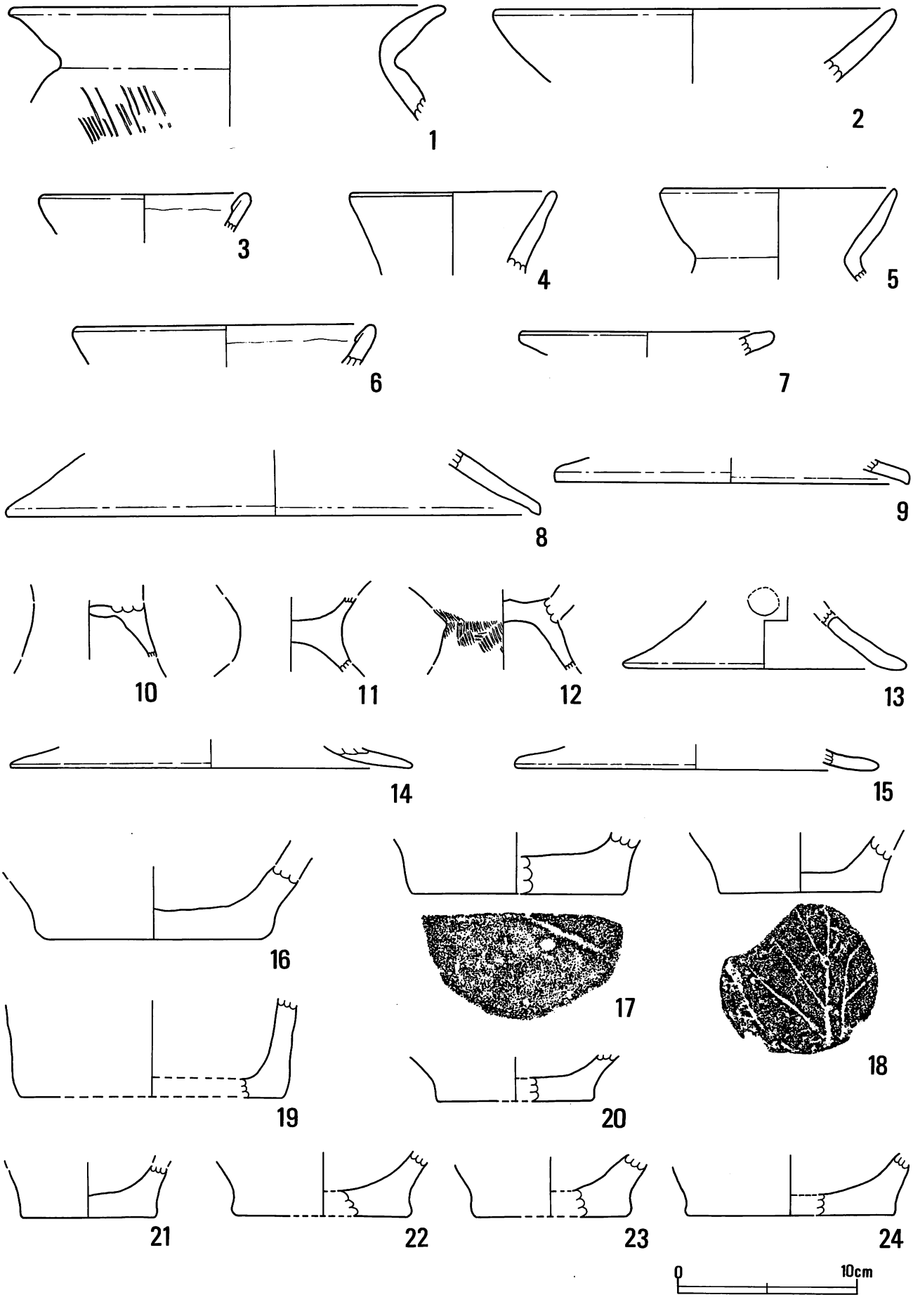
2）　遺構外出土遺物

・出土土器（第11図1～24）

１・Ｂ－３グリッド出土。土師器甕口縁部破片。推定口径18.2㎝。頸部は「く」の字状に屈曲し、頸部から口縁部にかけてラッパ状に外反しながら開く。口縁部内外面はナデによる調整、胴部外面はハケ調整、内面は指頭による圧痕がみられる。色調は明褐色を呈し、胎土は砂粒、雲母が見られる。２・Ｄ－４グリッド出土。土師器高坏口縁部破片。推定口径17.0㎝。口縁部内外面ともナデ調整が施され、赤色塗彩が施された痕跡がわずかながらみられる。色調は、暗赤褐色を呈する。３・Ｄ－３グリッド出土。小型壺形土器口縁部破片。推定口径9.0㎝。口縁部内面が折り返されており、内外面ともナデ調整が施される。色調は明褐色を呈する。４・Ｄ－４グリッド出土。小型壺形土器口縁部破片。推定口径8.8㎝を呈し、内外面ともナデ調整を施す。色調は暗褐色を呈する。５・Ｄ－４グリッド出土。小型壺形土器口縁部破片。推定口径10.0㎝を測り、頸部が「く」の字状に屈曲する。内外面ともナデ調整施される。６・Ｄ－６グリッド出土。壺形土器口縁部破片。推定口径12.8㎝を測り口縁部は内面に折り返されている。色調は茶褐色を呈する。７・Ｅ－３グリッド出土。壺形土器口縁部破片。推定口径10.8㎝を測り色調は暗褐色を呈する。８・Ｃ－５グリッド出土。土師器坏蓋口縁部破片。推定口径22.4㎝を測り、色調は明褐色を呈する。９・Ｄ－４グリッド出土。土師器坏蓋口縁部破片。推定口径15.0㎝。明褐色を呈する。10・11・12は台付甕の脚部破片で、10・Ｄ－４グリッド出土で外面にハケ調整が施され、明褐色を

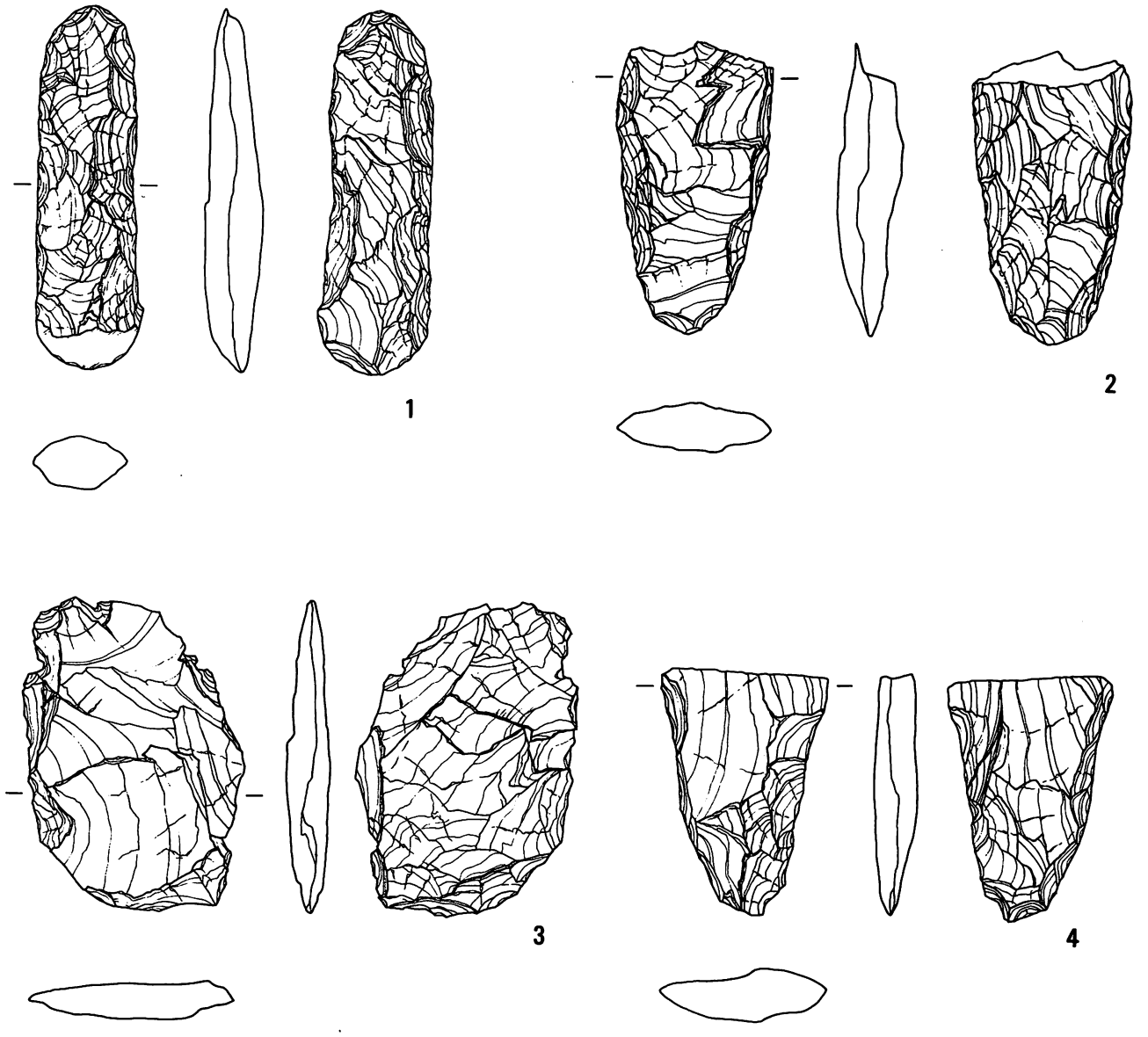


第10図　第１号土坑出土遺物



第11図　遺構外出土土器

呈する。11・D－4グリッド出土。褐色を呈する。12・C－5グリッド出土。外面にハケ調整が施され、暗褐色を呈する。13・C－2グリッド出土。高坏脚部破片で、推定底径12.0cmを測る。内外面ともナデ調整を施し、円孔が見られる。色調は明褐色を呈する。14・15も高坏脚部の底部破片で、14・D－4グリッド出土。推定底径17.0cm。色調は明褐色を呈する。15・E－4グリッド出土。推定底径17.0cm。色調は淡褐色を呈する。16・C－5グリッド出土。壺形土器底部破片。推定底径9.0cm。摩滅が著しいが底部に木葉痕がみられる。色調は褐色を呈し、胎土は砂粒多く含む。17・D－4グリッド出土。壺形土器底部破片で推定底径9.0cmを測り、底部に木葉痕が施される。色調は淡褐色を呈する。18・D－6グリッド出土。壺形土器底部破片底径6.8cmを測り、色調は褐色を呈し、内面には赤色塗彩され、底部には木葉痕がみられる。19～23も壺形土器底部破片の細片であ



第12図　遺構外出土石器

る。19・D－4グリッド出土。推定底径11.0cm。色調暗褐色。20・D－4グリッド出土。色調は褐色。21・D－4グリッド出土。推定底径5.8cm。色調は褐色を呈する。22・E－5グリッド出土。推定底径7.5cmを測り、色調は褐色を呈する。23・D－4グリッド出土。推定底径6.4cmを測り、色調は褐色を呈する。24・E－3グリッド出土。推定底径9.0cm。色調は褐色を呈する。

・出土石器（第12図1～5）

1～4は打製石斧と思われるもの、5については石鏃を一括した。

1・C－3グリッド出土。長さ10.5cm、幅2.8cm、厚さ1.5cmを測り、粘板岩製。刃部形は円刃形を呈する。2・C－3グリッド出土。形態は逆撥形を呈し、長さ8.3cm、幅4.4cm、厚さ1.4cmを測り、粘板岩製。刃部形は斜刃を呈する。3・D－2グリッド出土。長さ9.0cm、幅5.9cm、厚さ1.3cmを測り、粘板岩製。4・E－5グリッド出土。長さ7.2cm、幅4.8cm、厚さ1.5cmを測り、安山岩製。逆撥形を呈する。5・E－6グリッド出土。長さ1.9cm、幅1.1cm、厚さ0.4cmを測り、黒曜石製。

第4章　まとめ

今回の石和高校周辺遺跡の調査は、調査面積10,866㎡について調査を行った。しかし、試掘により範囲確認調査を実施したところ、1,059㎡の微高地について遺構や遺物が確認されたため本調査に至った。

本遺跡は盆地部の笛吹川左岸の氾濫原に接し、西北方向へ傾斜する金川扇状地の末端部に位置し、標高274m程の低地に位置することから、低湿地に伴う木製品などの資料の検出も考えられた。しかし、微高地以外の箇所については深さ40cm～70cm程で青色砂層が見られ、湧水が伴うなど、遺構・遺物が伴う確認面は検出できなかった。

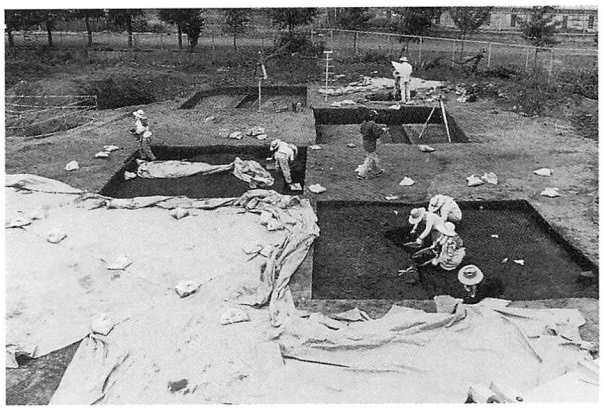
しかし、微高地上1,059㎡については、摩滅が著しいものの弥生時代後期から古墳時代前期を中心とした土器片が遺構に伴っていないが数多く検出されている。（第11・12図）

遺構については、今回の調査で唯一、土坑が1基ではあるが検出されている。この土坑から石臼（下臼部）や銭貨、中世の土師質土器が小破片であるが検出され、また大型の礫が72点ほど石臼などと伴に投げ込まれている状態で検出されている。今のところ、この土坑についての位置づけ・性格について不明であるが、他の検出例をまって検討を行いたい。

遺構外の出土遺物については、前述したとおり、弥生時代後期から古墳時代前期の甕形土器・壺形土器などの破片資料であり、図示できたもはごくわずかである。縄文時代の土器片も、少量であるが出土している。しかし、前述したとおり、いずれの土器片も摩滅が著しいこと、縄文から中世に至る各時代の遺物もほぼ同一レベルであることから、おそらく石和高校周辺遺跡本体及び周辺に点在する遺跡からの流入であると考えられる。本遺跡の主体も北側にあることから、周知の石和高校周辺遺跡の端部に今回の調査がおこなわれたものと考えられる。今後も石和高校整備事業は継続し、それに伴う発掘調査も行われることから、石和高校周辺遺跡の性格など今後の調査で解明できよう。

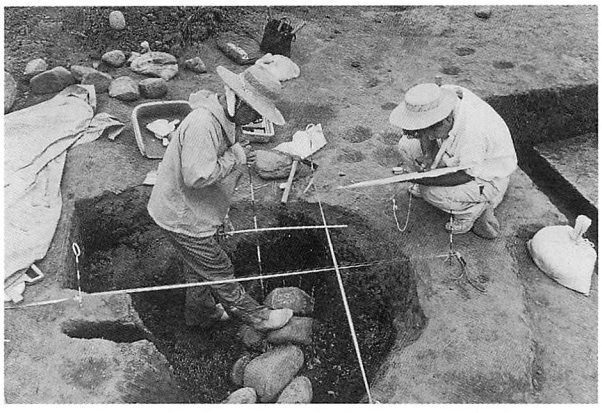
なお、発掘調査から報告書刊行に至るまで、多くの皆様方のご協力をいただくとともに、石和町教育委員会、御坂町教育委員会には大変お世話になりましたことを末筆ではありますが、厚く御礼申し上げます。

調 査 区 近 景



調 査 風 景

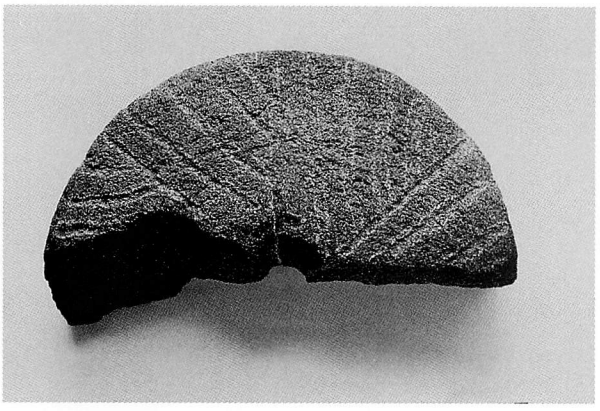
第１号土坑プラン確認状況



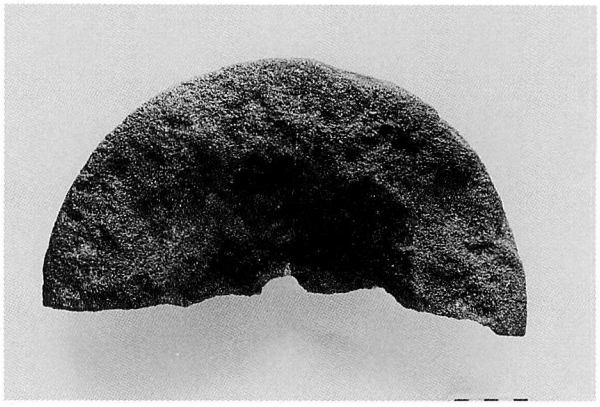
第１号土坑調査風景

第１号土坑石臼出土状況

第１号土坑完掘状況



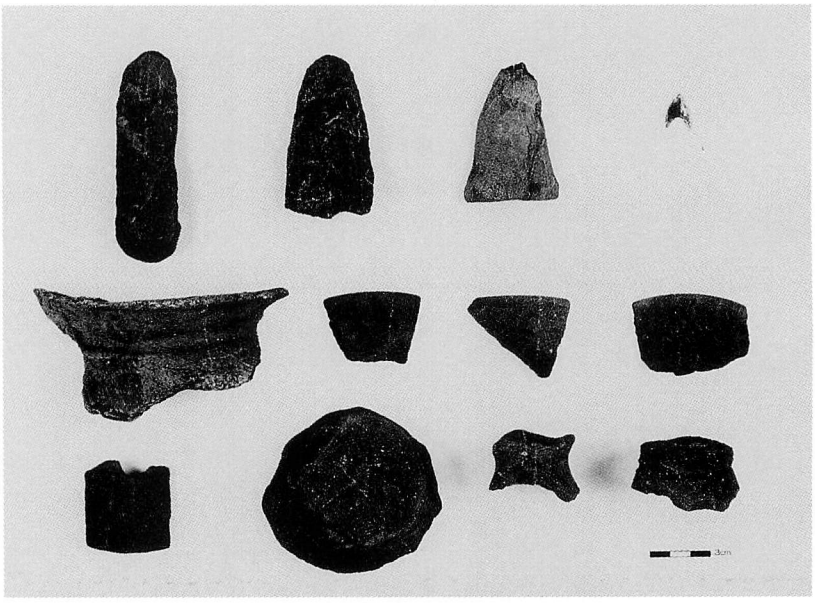
第１号土坑出土石臼（表面）



第１号土坑出土石臼（裏面）

第１号土坑出土石器（表面）

第１号土坑出土石器（裏面）



遺構外出土遺物一括

報告書概要

フリガナ		イサワコウコウシュウヘンイセキ
書名		石和高校周辺遺跡
副題		県立石和高等学校グラウンド拡張整備事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ		山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第126集
著者名		高野玄明・雨宮芳夫
発行者		山梨県教育委員会
編集機関		山梨県埋蔵文化財センター
住所・電話		山梨県東八代郡中道町下曽根923　〒400−15　TEL　0552−66−3881・3016
印刷所		株式会社　少国民社
印刷日・発行日		1997年3月21日・1997年3月28日
石和高校周辺遺跡所在地	所在地	山梨県東八代郡石和町市部・御坂町成田地内
	25,000分の1地図名 位置・標高	石和　北緯 35° 38′ 28″ 東経138° 55′ 00″　標高274m
概要	主な時代	弥生時代後期〜古墳時代前期、中世
	主な遺構	中世の土坑1基
	主な遺物	弥生時代後期〜古墳時代前期の土器片、中世の土器、北宋銭、石臼
	特殊遺構	
	特殊遺物	
	調査期間	1996年5月20日〜7月12日

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第126集

1997年3月21日　印刷
1997年3月28日　発行

石和高校周辺遺跡

編　集　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曽根923
TEL　0552−66−3881・3016
発　行　山梨県教育委員会
印　刷　㈱少国民社